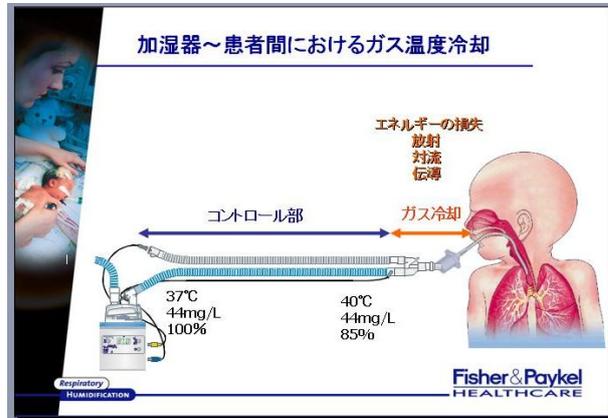


加湿について(2)



[閉鎖式保育器における加湿]

1. 保育器の中に温度プローブを設置してしまうと、温度プローブ自体が加温されてしまいます
2. 温度プローブが加温されてしまうと、加湿加湿器のヒーターワイヤで加温しなくても温められていると加湿加湿器が勘違いしてしまいます
3. ヒーターワイヤが作動をしなくなってしまう、十分な加湿動作をしなくなってしまう
4. 結果として吸気ガスは設定温度より低く、加湿不足の吸気ガスが赤ちゃんに送られてしまいます

温度プローブを閉鎖式保育器の中に入れる場合(設定温度 34°C以下)は、保育器の環境設定に影響を受けてしまいますので、十分な注意が必要です

ちなみに閉鎖式保育器設定温度 34°C以上の場合は、温度プローブは保育器の外に設置



保育器の設定温度が高いと呼吸器回路が温められるため、呼吸器回路内乾燥化が起こり相対湿度が低下してしまいます

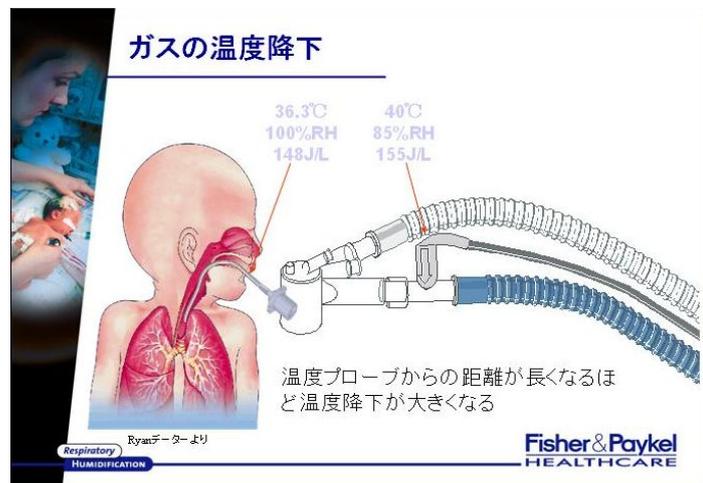
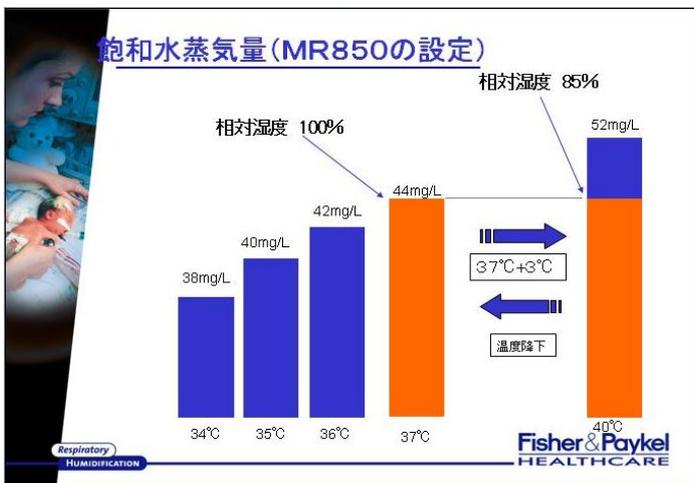


しかし保育器の設定温度が低下すると、呼吸器回路内の結露が増加します



保育器設定温度が下がると呼吸器回路内と温度差が大きくなり、結露が発生してしまう赤ちゃんへの水の垂れ込みが発生してしまうので注意が必要です

温度プローブが保育器または暖房された場所で設置(使用)された場合、結露が発生しガス温度が低下する可能性があります



Yピースから口元に到達するまでヒーターワイヤのない部分約10cmの間に温度は3°C以上下がります。距離が長くなればなるほど下がりますので新生児の回路で保育器の外に温度プローブを設置していたら、出来るだけ短くしてください